

社会的つながり強化を

弘大ウェルビーイング総研シンポ



ウェルビーイング研究の重要性について特別講演する
カワチ最高顧問

弘前大は国「地域中核
・特色ある研究大学強化促
進事業(J-PEAKS)」
の採択を受け、ウェルビ
イング領域の先端研究拠点
として同研究所を創設。12
日の開所式に併せて、シンポ
ジウムを開催した。

弘前大副学長で同研究所
副所長の村下公一教授は基
調講演で、大規模住民合同
健診「岩木健康増進プロジ
エクト」の健康ビッグデータ
を核に構築した基盤など
を紹介。「(弘前大)全學
合知」に加え、産学官民金
の連携で地域をはじめ地球
規模での「ウェルビーイン
グ共創社会の実現」を目指
す」と語った。

弘前

弘前大学グローバルWell-being総合研究所開所を記念したシンポジウムが12日、同大創立50周年記念会館で開かれた。会場とオンラインで合わせて約700人が参加、同研究所のイチロー・カワチ最高顧問(米ハーバード公衆衛生大学院教授)らの特別講演やパネルディスカッションなどを通して、Well-being(ウェルビーイング)心身および社会的に健やかで幸せな状態研究の重要性に理解を深め、同研究所を拠点に進められる世界トップレベルの研究に期待を寄せた。(稲葉智絵)

ウェルビーイング領域研究の世界的権威であるカワチ最高顧問は同研究の重要性について講演した。思考実験の結果を踏まえ、「所得格差の拡大が幸福感を低下させる。所得分配を公平性は経済成長を促進させたため、人々の幸福にどう

つて重要」と示唆。重ねて「リモートワークやソーシャルメディアの需要増加など、テクノロジーの進歩が社会的つながりを低下させている」とし、「国家戦略として『所得格差の縮小』『社会的つながりの強化』に取り組む必要がある」と述べた。

「パネルディスカッションでは、弘前大が掲げるビジョンの実現に向けて、パネリストから「目標すべき方向性について共通認識を持つべき」「分野を超えた議論が新たな発想を生む」といった意見が出た。